

西王母

長唄

全詞章

杵屋六左衛門 述

変化舞踊「八重九重花姿絵」の一

別題「国豊かの西王母」

国豊か三皇五帝の昔より、今此の御代に至るまで、かかる聖主のためしこそ、あら有難の
時代なれ、あら有難の時代なれ
桃李もの言はず春幾千の歳月を、送り迎へて三千年に、なるてふ桃の花の顔
露に色香も十寸鏡

うつろうものは世の中の

人の心の花ならぬ

去りとは

君が恵の深緑、いざや捧げん花も実もある桃の寿、あら不思議やな水茎の、奇特現はれ
忽に、花飛び散りてひてふの姿、雨を呼ぶとぞ見えにける

雲ぢにうつれば王母もともなひ、天の羽袖の風に翻り、振り来る雨をうち払ひうち払ひ、光を
放つ稲妻の、雲に紛れて失せにけり